

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
吉田町立こども発達支援事業所		令和7年3月31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国が定めている定員に対し、当事業所は3対1の配置をしている。また、並行通園等の職員も必要に応じて入っている。	経験の浅い職員もいるため叱咤の行動の対応に苦慮することもある。他のクラスの職員とも皆で協力し声を掛け合っていくようにしていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーテーションやリソースルーム等個々に対応出来るように整えている。	カンファレンス等を利用し、その時に出来ることが何かを職員共通の認識で話し合っていないといけない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎朝、降園時等職員で清掃、消毒をしている。	修繕が必要な個所は、気がついた事はその都度報告するようにし対応していかなければならない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		リソースルームやパーテーション等をがある。	使用出来る部屋が限られているため、互いに譲り合いながら使用していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		前年度の意見を参考にし、今年度は降園時廊下が混みあう時間帯には室内に入ってやり取りをするように心掛けた。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				第三者による外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		園内研修を毎月設け、職員間での意見交換や外部講師を招いての勉強会の場になっている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			今年度作成し、3月に公表予定である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		家での様子を保護者に聞きとったり、職員間で所での様子を確認したりしながらアセスメントをし、計画に反映させている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成前には相談員を含めながらカンファレンスを行っている。	子ども一人ひとりに合わせた計画になるよう、カンファレンスの仕方を今後検討していきたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			事例検討や日々の療育を見直す機会を定期的に設けていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		今年度から月に1回、クラスミーティングの時間を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			固定化しつつあるため、工夫が必要だと思われる。他施設の見学などの機会を設け、活動プログラムを見直すきっかけを作っていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			随時行うように努めているが、時間を確保することが難しいことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日時間を設けることは難しいが、ミーティングとして振り返る時間を設けてる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			必要性は感じているが、現時点では実施に至っていない。やり方を検討し実施していきたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管、担当職員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		利用児と保護者が戸惑うことなく移行が行えるよう、移行先と密に連携を取りながら行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校との連絡会や支援学校との移行支援会議に参加したり、個別の教育支援計画を作成したりして引継ぎを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		相談員とは密に連携をとっている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイスや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		併設しているすみれ保育園と交流の機会を定期的に設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントメンターのおはなし会に卒園児にも声を掛け、希望者に参加してもらっている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用前に保護者との面談をする機会を設け、説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		口頭だけでなく普段の様子の映像を見てもらいながらわかりやすく説明することに努めている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		座談会を開くなど保護者同士悩みを共有する場を設けてる。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者が相談しやすい雰囲気作りを心掛け、保護者の希望があれば話をする機会を設けている。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月個別のドキュメンテーションを作成し、廊下に掲示をしている。	行っているが、保護者への周知が薄いため認識されていない。今後は周知の仕方を検討したい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	今年度から町内の放課後等デイサービスとの交流を設けた。	事業所への理解を深めるためにも地域の方と交流する機会を設けていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		改定する点があれば見直しをしている。	職員の研修や子ども達の訓練等、保護者に周知していなかったため、今後はドキュメンテーション等を利用し周知していきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		地域の小学校や隣接している保育園と合同で訓練を行った。	保護者への周知が足りないと思われるため訓練の様子等を周知していきたい
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		通院時の情報を共有出来るよう、通院の翌日は詳細を記入してもらい担当に渡してもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・入所時にアレルギーの有無の情報は提供してもらっている。食物アレルギーを持っている子は医師からの指示書を提出してもらうことになっている。その場合、町の栄養士と給食員と連携をとり献立を決定している。	今後アレルギーがある子が入所した場合、担当だけでなく職員全員で情報を共有して事故のないようにしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			職員会議等で安全のための点検箇所等を知らせ安全への意識を高めていきたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			保護者への周知が足りないので、今後は園だより等で取り組みを知らせていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事務室にヒヤリハットの事例の危険箇所等を示す園内図を掲示している。	毎朝、朝礼を行っているため、事例があった場合や危険を感じた箇所があれば報告しあい、対策等を共有していきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			研修だけではなく、誰にでも相談出来る風通しの良い職場作りを心掛けていきたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個々の子どもの様子は登降園時に保護者と話している。家庭での状況も把握しながら対応している。	カンファレンスや計画作成時等必要な時に情報共有し、対策を考え保護者にも相談をしていきたい。